

導入事例

学校法人 九州安達学園 専門学校 九州デザイナー学院



Cintiq Companion導入により、 通常教室で最先端の デジタル実習授業が可能に



Cintiq Companion

専門学校 九州デザイナー学院は、2014年4月より株式会社ワコムのWindows 8搭載のクリエイティブタブレット「Cintiq Companion」を30台導入。マンガ学科における実習授業での使用を開始し、制作スキルの向上を図っています。

☑ 導入前の課題

- グローバルな活躍を視野に入れたデジタルスキルの向上
- コミックイラスト、マンガ業界において普及が進む液晶ペンタブレットのスキルの習熟
- デジタル実習授業の増加に伴うPC教室不足の解消

☑ 導入後の効果

- アナログと同じ感覚で描ける液晶ペンタブレットを使うことによるモチベーションとスキルの向上
- インターネット接続による制作のスピードとクオリティがアップ
- PCを常設しない通常教室でのデジタル実習授業が可能に

プロとして活躍するために デジタルスキルは必須事項

学校法人 九州安達学園 専門学校 九州デザイナー学院 (以下、九州デザイナー学院) マンガ科が「Cintiq Companion」を導入したのは、コミックイラスト、マンガ業界において急速に進むデジタル化がその背景にあります。そのような業界で活躍できる人材を育成するために、学生のデジタルスキルの向上を図る必要がありました。学務部の佐々木郁代先生は、「プロのコミックイラスト分野ではほぼ100%デジタルによる作画が求められます。またプロのマンガ家を目指すには、まずアシスタントからキャリアをスタートするのが一般的ですが、今ではデジタルスキルを持ったアシスタントの募集が格段に増えています。デジタルスキルの習得と向上は、プロとして活躍するための必須事項です」と強調し

ます。さらに佐々木先生は、「今後は、海外を中心にクラウド上でデータのやりとりをするマンガ制作のワークフローが普及すると思います。学生時代からデジタルスキルを身につけていれば、グローバルな活躍も期待できる」と言います。今回「Cintiq Companion」を導入した理由は、第一に「プロのイラストレーター、マンガ家に液晶ペンタブレットの使用者が増え、液晶ペンタブレットがプロの現場でのスタンダードなツールになりつつある」ためです。そして、カリキュラムに液晶ペンタブレットを使用したデジタル実習授業が増えれば、必然的にPC常設の教室が必要となりますが、OSを搭載したオールインワンのPCとして活用できる「Cintiq Companion」を導入すれば、PCを常設していない教室でも授業が行うことができます。それが、第二の理由でした。

通常教室でのデジタル実習が可能に

現在、マンガ学科は「Cintiq Companion」を30台導入し、コミックイラスト専攻の1年生50名、2年生35名の合計85名が実習授業で使用しています。コミックイラスト専攻講師の安部宗一郎先生によると、「私が教える「コミックデジタル作画実践」の授業は、PC常設教室ではなく、普段ホームルームで使っている通常教室に「Cintiq Companion」を持ち込んで行っています」と言います。「Cintiq Companion」上で使用しているソフトウェアは「CLIP STUDIO PAINT」と「FireAlpaca」の2種類。学生がそれぞれ、使いやすいほうのソフトウェアを選択し、制作を行っています。

Windows 8搭載の「Cintiq Companion」は、通常のPCと同様にそれ1台で直接インターネット接続が可能です。コミックイラスト分野では、「ライトノベルの挿絵など、ファンタジックなイラストレーションや歴史的な題材を扱う絵では、実物が手軽に見られないため、インターネットで画像や映像などの参考資料を集めて描くことになる」ため、「Cintiq Companion」を使って絵を描きながらブラウザを立ち上げてインターネット検索が手軽にできることは、制作時間の短縮、作品のクオリティアップにも直結する」と安部先生は言います。また同校は学生にインターネット公募のコンテストやコンペティションへの参加を積極的に呼びかけているので、授業で完成させた課題を「Cintiq Companion」から直接ネットで応募する学生も多いとのこと。講師陣への課題提出もメール添付ですぐに行え、効率アップに役立っています。

九州初の「Cintiq Companion」導入で 入学志望者からも注目

学生の就職先となるエンタテインメント業界で普及が進む液晶ペンタブレットの操作に慣れ親しみ、デジタルスキルを向上させられるのは、「Cintiq Companion」を導入したことによる大きなメリットです。アナログと同じ感覚で絵が描ける液晶ペンタブレットを使うことで、「学生はより直感的な創作活動ができ、課題に向かうモ

チベーションが大きく向上している」と安部先生は言います。さらに「鉛筆や消しゴム、画材、スクリーントーンが机に散らばらず、手を汚すことなく創作活動に専念でき、授業への集中力を高める効果もある」とのこと。また、講師側にとっても「Cintiq Companion」を使うと、ディスプレイ上で学生の絵にダイレクトに添削ができ、指導がしやすい」と言います。授業のスピードがアップし、学生はより数多くの作品を手掛けることでスキルも向上するという相乗効果が生まれています。

また、九州で初めて「Cintiq Companion」を使ったデジタルの実習授業を行っていることは、九州近隣のイラストレーター、マンガ家志望者への影響も小さくなく、次年度入学予定の高校生を対象にした体験授業の集客力アップにも直結しています。「憧れの液晶ペンタブレットを使える学院・学科として、志望者の増加にも貢献している」と佐々木先生は考えています。

九州デザイナー学院では、2014年10月からはマンガ専攻の学生にも「Cintiq Companion」を使った授業を行う予定です。「今後は「Cintiq Companion」の導入台数を随時増やし、デジタルスキルのさらなる向上を図りたい」と佐々木先生。九州デザイナー学院の取り組みにより、デジタル化が進むコミックイラスト、マンガ業界でグローバルに活躍する、さらなる人材の育成、輩出が期待されます。

